児童画の見方とその指導

1　基本的な立場

児童の絵は，これを芸術的な対象としてみることができるし，また，児童の心理を知るためのひとつの資料としてみることができる。

私たちは教育者として，これを教育の立場から，児童の芸術教育の所産としてみることが大切である。児童の絵は，独自な世界をもっているのであって，これを大人の縮図的な未完成の段階とみてはならないと考える。

Ｖ・ローエンフェルド（アメリカの美術教育学者）は，「美術による人間形成」の中で，教師は次第に成長していく児童生徒の要求に自己同一化することが，優れた指導をしていくためには絶対に必要なことであるとしている。つまり，自己同一化とは，教師が一人一人の児童の心の中に入り，児童と一緒になって創造していこうとするわけである。従って，大人である教師が大人のままで児童の指導はできないし，してはいけないと考える。児童の次元に立って，教師がその児童になりきり，お互いが同時に対象を見つめ表現していくことが大切である。また，絵を見る際にも，児童の心を十分にとらえてみることが大切である。

2　児童画の見方

(1)　心理学的な見方

低学年の児童がよく家より大きな人間をかく。大人の目から見ると不自然な形である。しかし，私たちの目から見て正しいものが，児童の目にとって正しいとは限らない。自己中心的で，未分化な発達段階にあるこの期の児童にとっては，より関心の高いものは大きく感じられる。たとえ遠くにあるものでも，児童の心の中で重要な位置をしめているものは大きく表現されるのである。

(2)　造形的な見方

形や色の説明的要素（何がどうしている等）にはあまりこだわらずに，画面をどのように処理してあるかということを見て，児童の造形的な感覚の質を見る方法である。

(3)　教育的な見方

上の二つの見方を取り入れて，このような傾向の作品が望ましいと考えて，その方向に合うような角度から見ることである。図工美術教育の目標に即して，造形的能力を培うという点からの見方で作品の結果より，過程の材料・用具の取り扱いとか，理解・態度などの育成をより重視する見方である。

○　横の見方（相対評価）‥‥相対的にクラスでの位置を知り，個人差を明らかにするとともに，児童の特性をつかみ，指導の手掛かりをさがす見方である。

○　縦の見方（絶対評価）‥‥一人の児童が前の作品と比べてどのような変化を見せているか，ある期間を通して作品の傾向をみる見方である。この方法は，児童の心理的成長とその治療法の発見にとても効果的である。また，一人一人の児童の個性を発見し，それを伸長する個別指導の手掛かりを見付けるのにも役立つ。

3　小学校における絵画指導上の留意点

<table>
<tr><td>学年</td><td colspan="2">第　1　・　2　学　年</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学習指導要領の内容</td><td colspan="2">(2) 感じたことや想像したことなどを絵や立体に表したり，つくりたいものをつくったりするようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ア　表したいことを進んで見付け，好きな色を選んだり，いろいろな形をつくって楽しんだり，つくり方を考えるなどしながら思いのままに表すこと。
イ　表したいことに合わせて，粘土，厚紙，クレヨン，パス，はさみ，のり，簡単な小刀類などの身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使い，絵や立体に表したり，つくりたいものをつくったりすること。</td></tr>
<tr><td>表現の特性</td><td colspan="2">＊　自分の好きな形や色などを使う。思い付いたことをすぐ試そうとする。そこにその子らしい表現の魅力がある。
＊　はじめに手がけたことが変わっていき，その変わる楽しさを味わうようなところも見られる。
・　表現の傾向は，図式的で象徴的である。
・　興味や関心のあるものを誇張したり，大きく描いたりする。
・　経験したことを画面に説明するように描く。
・　自分が概念としてもっている形や色におきかえて表現する。
・　興味を示したものに集中し，他はあまり関心をもたない。
・　表現しながら考えたり，表現したものから考えたりして付け加えていく。
・　表現の結果にこだわらず，表現活動そのものを楽しむ。
・　表そうとするものの形や色に関心をもち始めるようになる。
・　生活体験や造形経験が豊かになってくると,表現に工夫がみられるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導上の留意点</td><td colspan="2">＊　児童が自分の方法で思いのままにつくりだす過程を楽しめるように，いろいろな表し方を体験する機会をもてるようにし，それを自分なりに生かして描けるように支援する。
＊　児童が表したいことを表せるように，形や色，材料などを自ら選び，試み，表す体験を重ねられるようにする。
＊　手や体の働くままに活動を進め，自分の表したいことを見付けられるように共感を中心とした支援をするようにする。
・　児童の素直な思いや感じ方を見守り，その子らしい表し方でよいことを認める雰囲気づくりと，温かい励ましの言葉で指導する。</td></tr>
<tr><td>構想</td><td>・　安心して楽しく表現できる雰囲気づくりに努める。
・　興味を強くもつところの様子や思い描いた様子，五感を通した体験などの話をさせるようにする。
・　表現したい対象の動きや様子，形や色，感じなどよく観察させるようにする。
・　必要ならば，動きや表情などを動作化させるようにする。</td></tr>
<tr><td>表現</td><td>＊　一人一人の形や色などについての感覚や関心を大切にする。
＊　児童が，感じたことや想像したことなど表したいことを基に，形や色，材料などを自分で選び，それらを思いにそって試しながら表すようにする。
＊　様々な作品が予想されるため，　それらの表現を幅広くとらえるようにする。
＊　いろいろな表し方を組み合わせながら，幅広い造形活動を進めることができるようにする。
・　児童の印象を素直に表現させるようにする。
・　場合によっては立って描くなど，自由にのびのびと描かせるようにする。
・　お話のできる絵になるようにする。
・　自分を絵の中に入れさせると，主題と自分の関係が画面に表現されていきいきとした絵になることが多い。
・　クレヨン，パスなどを中心に，児童の欲求に応じて，コンテ，各種のペン類，色鉛筆などを使用するようにする。
・　水彩絵の具を使用するときは,おおまかな使い方を分からせるようにする。
・　描こうとするものにはいろいろな色があることに気付き，好きな色を選んで描かせるようにする。
・　無意味な色のぬり込みを強いることなく，自由に描かせるようにする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学年</td><td colspan="2">第　3　・　4　学　年</td></tr>
<tr><td>学習指導要領の内容</td><td colspan="2">(2) 見たこと，感じたこと，想像したことを絵や立体に表したり，つくりたいものをつくったりするようにする。
ア　表したいことを表すために，形や色，材料などを生かし，それらの組み合わせの感じに関心をもち，美しさや用途などを考え，計画を立てるなど工夫して表すこと。
イ　表したいことに合わせて，前学年までに経験した材料や用具，板材などの特性を生かすとともに，手を十分に働かせて水彩絵の具，小刀，使いやすいのこぎりなどの用具を工夫して使い，絵や立体に表したり，つくりたいものをつくったりすること。</td></tr>
<tr><td>表現の特性</td><td colspan="2">＊　興味や関心をもつ対象が広がるとともに，一層想像力を働かせ子どもらしさを発揮するようになる。
＊　表したいことを見付け，表し方を工夫するなど進んで取り組む姿が見られる。
＊　扱う材料や用具の種類も増え，自分の表したいことに合わせて，それらを使うことにも関心をもつようになり，友人の発想などにも関心を示すようになる。
＊　より楽しいもの，より美しいものにしようとする姿が見られるようになる。
＊　表現意欲も高まり，工夫することを楽しむとともに，友人とのかかわりでは，表したことを自分たちで振り返り，発想の楽しさなどを分かり合うようになる。
＊　一層活動的になり，いろいろな材料や用具，表し方に進んでかかわり，夢を描いたり，冒険心に富んだ表現を試みたりするようになる。
・　客観的な表現を使用するようになり，対象の見方や感じ方，表し方の違いが見られ表現の仕方が多様になる。
・　対象を見てかくことに興味を示し，描写する力も増す。
・　ものとものとの関係に注意して表すことができるようになる。
・　空間に対する意識が芽生えてくる。・　計画的に表すことができるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導上の留意点</td><td colspan="2">＊　児童一人一人の表現に応じて，弾力的な指導をすること，また，児童が関心や意欲をもつ材料や用具などを用意し，豊かな発想をしたり，一人一人のよさを生かした技能を深めたりすることを楽しむようにする。
＊　豊かな発想や構想，その子らしい感じ方や技能などの力を伸ばすように共感的な支援をする。
・　自分の表し方が認められないことから，興味や関心・意欲を失うことが多いので，十分留意する必要がある。
・　客観的な思考力，観察力，批判力などの発達から，表現結果を上手・下手で見るようになるが，表現活動の自由さ，いろいろな表現の仕方があることや自分の表現したい方法を積極的に表に出すことの意義を指導することが大切である。</td></tr>
<tr><td>構想</td><td>・　表そうとする思いをとらえさせるようにする。
・　表そうとする対象をいろいろな視点から観察させるようにする。
・　表すものの主となるものと周囲のものに目を向けさせるようにする。
・　ものの前後，遠近関係をとらえ，ものの面白さに気付かせるようにする。
・　対象の形や色などの特徴をとらえさせるようにする。</td></tr>
<tr><td>表現</td><td>＊　どのような色と色が合うかを試したり，表したい感じになるまで形を組み合わせたり，偶然の感じの面白さに気付き，それを選ぶことを含め，自分らしい美しさや面白さなどの感覚を働かせるようにする。
・　自分なりに感じとった形や色をつくり素直に描いていくようにする。
・　思い（主題）を感動的に強調して描かせるようにする。
・　思い（主題）を表すための主要なものをしっかりかき，それを生かす周りのもののや色，大きさ，位置などを検討して描かせるようにする。
・　ものの大小，前後，遠近関係や重なりなどをよく見て構成を工夫させるようにする。
・　画面がさびしいときはかき加えたり，にぎやかにするときは省いたり構成を工夫させたりするようにする。
・　水彩絵の具の基本的な扱い方について指導するようにする。
（絵の具の出し方・溶き方，パレットの使い方，筆使い，後始末の仕方など）
＊　水彩絵の具のいろいろな扱い方を児童が見付け，表現に生かすようにする。
・　主題に合わせて、混色や重色，にじみなど表現の工夫をさせるようにする。
・　対象をよく見て色の変化に気付かせるようにする。
・　自分の発見した色をつくってぬるようにする。
・　いたずらなぬり込みやべたぬりにならないように工夫させるようにする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学年</td><td colspan="2">第　5　・　6　学　年</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学習指導要領の内容</td><td colspan="2">(2) 見たこと，感じたこと，想像したこと，伝えたいことを絵や立体に表したり，工作に表したりするようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ア　表したいことを表すために，形や色，材料の特徴や構成の美しさなどの感じ，つくるものの用途などを考えるとともに，表し方を構想し計画して，創造的な技能などを生かして表現すること。
イ　表したいことに合わせて，前学年までに経験した材料や用具，自分が選んだ材料，糸のこぎりなどの特徴を生かして使い，表現に適した方法などを組み合わせながら，絵や立体に表現したり工作に表したりすること。</td></tr>
<tr><td>表現の特性</td><td colspan="2">＊　個性的な表現が見られる一方で，自分の作品を人に見せることに慎重になる。
＊　例えば見たものの形などが気に入り，それを見ながら表すことを始めたとしても，やがてそこから離れ，表現を広げたりすることがある。このように表したいことが，見たことから想像することへ広がり，その広げ方や深め方には，その子らしさが働き，目にした形や色と離れた表現になることが少なくない。
＊　自分らしさを意識するようになる。
・　観察力，思考力，判断力が増し，ものの見方，考え方も深まる。
・　客観的なものを求めていく傾向が強く，細かな点まで観察することができる。
・　ものとものとの関係がとらえられ，写実的な傾向が見られる。
・　個人差，男女差が顕著になる。
・　表現技術が一層高まってくる。
・　自己の表現に対して自己評価をして意欲が低下することもある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導上の留意点</td><td colspan="2">・　単に対象に似せることよりも，表したいことや表したい感じを大切にし，それをいろいろな表現の工夫を通す中で見付けられるようにしたい。
・　できるだけその子らしい造形的な試みを励ましながら，創造的に取り組めるような場を保障するようにしたい。
＊　児童一人一人のもてる力を十分に働かせるようにすることが大切になり、絵や立体，工作に表す表現を幅広くとらえるようにするとともに，弾力的な指導を進めるようにする。</td></tr>
<tr><td>構想</td><td>・　その子らしい試みを励ますようにし，個性的で創造的な表現の能力を高めるようにする。
・　見たことを表すとしても，自分の見方や感じ方で，その美しさや不思議さ，快さなどを感じ取り，それを表すようにさせる。単に，再現を目指すものではない。
・　表現しようとする主題を，いろいろ試みながら明確にとらえさせるようにする。
・　主題がよく表れるように，対象のどの部分を画面のどこに，どのように表現するか構想を練らせるようにする。
・　主題がよく表現できるように，対象をとらえる視点，全体と部分，部分と部分の関係，主と従，遠近や明暗などとらえられるようにしていくとよい。</td></tr>
<tr><td>表現</td><td>○　自分の思いに合わせて，次のようなことに気付いたりできたりしていくとよい。
・　主題が明確に表現されるように画面の構成を工夫させるようにする。
・　主題の中心となるものと周りのものとの関係をはっきりさせ，画面のどこにどのようにかくか考え，画面を効果的に工夫させるようにする。
・　感動をもとに構成を練り，省略や強調など表現の工夫をさせるようにする。
・　遠近の表現を工夫させるようにする。
・　対象の形の大小，特徴などをとらえさせるようにする。
・　水彩絵の具の性質を生かして表現させるようにする。（透明，不透明）
・　色の変化を見とり，タッチや混色・重色など工夫させるようにする。
・　明るい部分，暗い部分の変化に気付かせ表現させるようにする。
・　質感が出るように表現を工夫させるようにする。</td></tr>
</table>